

所内研修②「幼稚園教育の概要」

10月27日(火)に所内研修として、幼児教育担当指導主事大城美恵子指導主事を講師に、学びの基礎である幼稚園教育概要の理解を図ることをねらいとして、講話を実施しました。

長きにわたり幼稚園教育に携わり、幼稚園教諭、教頭、専任園長、県指導主事としての経験を活かした、実際の各幼稚園の保育実践を交えながらの70分の講話は、幼児期の学びの芽生えがその後の教育の基礎を培うことになることを理解して欲しいとの熱き思いのこもったメッセージとなりました。

【講話の概要】

1 幼稚園教育の基本について

(1) 人格形成の基礎を培う

○基本法第11条・学校教育基本法22条

(2) 環境を通して行う教育

- 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開
- 遊びを通しての指導を中心としてねらいを総合的に達成する
- 一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行う

(3) 計画的な環境構成

○「幼児の主体性」と「教師の意図」のバランス

(4) 教師の役割

- 幼児のよき理解者 ○遊びの援助者 ○心のよりどころ
- あこがれを形成するモデル ○共同作業者・共鳴する者

2 学びのつなぎ

(1) 保幼小の教育のつなぎ

① 3つの自立

- 学びの自立 ○生活上の自立 ○精神的な自立

② 小学校教育との円滑な接続

○幼児教育→学びの芽生え 小学校教育→自覚的な学び

(2) 国の方向性→子ども・子育て支援新制度

- 3歳以上は幼児期の学校教育
- 幼保連携型認定こども園の推進
- 幼児教育・保育・子育て支援の質・量の充実

(3) 沖縄県の方向性→沖縄型幼児教育の推進

- 発達・学びの連続を踏まえた円滑な接続
- 保幼小連携による幼児教育・保育の質の向上、学びの基礎力の育成
- 公立幼稚園が結節点

11月の行事予定

- 10/23 幼稚園実地研修スタート
(10/23・26・27・11/9・10)
- 3日 公休日(文化の日)
- 4日 幼児教育 自主講座①
「正月遊び教材の工夫」
- 5日 クラブ書道③
- 6日 所外研修⑥
「幼稚園教育課程研究協議会」
- 9日 所外研修⑦「組踊鑑賞」
- 11日 宿泊研修 伊江島(～13日)
- 14日 幼児教育 自主講座②
「子どもと楽しむ運動遊び」
(沖縄女子短大新キャンパスにて)
- 16日 所内研修 指導主事講話
- 17日 所外研修⑧
「地区学力向上推進実践事例発表会」
- 18日 第2回連携協力推進会議
(琉球大学教育学部)
- 19日 クラブ三線①
- 20日 所外研修⑨
「九州理科研究大会」
- 25日 指導講師検討会②(～27日)
- 〃 職務会
- 26日 クラブ書道④
- 27日 幼稚園教頭(主任)研修①



写真1 研修の様子

教育研究員の感想（研修日誌から）

幼稚園の研修でもこのような内容を聞く機会がたくさんありますが、毎回“うん、うん”と納得しています。それは、日々の保育の中で視点をもって取り組むことができるようになってきているからだと思います。「実際に見て保育の質の高まりが見える」と羽根田先生がおっしゃっていました。それは、幼児理解のもとに環境をそろえてあげる教師の役割の重要性を改めて実感する言葉でした。その為にやはり、子どもに寄り添うこと、子どもの身近な理解者というベースを忘れてはならないなと思いました。小学校や中学校の先生方も美恵子先生の講話を聞いて、子どもの育ちの繋がりがわかったかと思います。教育とは、断片的ではなくちゃんと繋がっていることがわかります。幼稚園では“保育を通して”というように発達を理解して援助していくことが必要です。5歳までの学びも知っていく必要があると感じました。

（上原亜矢）

教育基本法に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と示されていることから、幼児教育の重要性について教えていただきました。環境に必要なものを提供していくことが幼稚園教諭の仕事であり、遊びを通して、総合的に指導していくということがわかりました。美恵子主事のお話を聞いて、さすが幼稚園の先生だなと思ったのは、細やかで丁寧な指導をされるところや、一人一人の幼児の心のよりどころとなり、よき理解者であるところです。幼稚園の先生方や幼児教育から学ぶことは大きいと感じました。幼児の主体性に任せつつも実は、教師の意図もしっかり組み込まれている。難しいけど、教師の腕の見せ所だなと感じました。「スタートカリキュラム」（自覚的な学び）という言葉も初めて聞いたので、学校現場に戻ったら同僚にも伝えていきたいです。幼稚園の先生方が丁寧に大切に育てた子どもたちを、小学校でしっかりとバトンを受け取り、育てていきたいと思いました。（比嘉頼子）

幼稚園教育についての講話していただきました。印象に残ったことは、環境構成についてでした。子どもの自主性を育てるために職員が意図してものを置いたり時期を考えたり身の回りの環境整備にとっても配慮していることです。小学校みたいに一時間単位で教科の学習がないので幼稚園では学びの基礎を育てるための環境をとっても大切にしていることが改めてわかりました。また、幼稚園指導要領から小学校学習指導要領へのつなぎをしっかりとすることが大切で幼稚園生とのふれ合いをすることだけが目的だと思っていた幼小連携の意識を変えないといけないと感じました。疑問に思ったことは、子どもの自主性を大切にすると週案を計画しても毎週変わっていくのではないかと思ったことです。意図した方向に幼児が向かない場合はどのように対応していくのかを知りたいと思いました。

幼小連携の授業で、ただの小学校の授業参観ではなく、どちらもねらいを意識し、事前に打ち合わせもしっかりやった授業というのも事例で聞き、参考になりました。ぜひ、機会があれば、実践したいと思いました。（久高友弥）

幼稚園教育は、教育の原点になる要素がいっぱい詰まったものだと感じました。きめ細やかな幼児ひとりひとりへの対応は、素晴らしいと思いました。年間計画、月計画、週計画と何度も何度も検討し改善し、個々に対応していくサイクルは細やかな対応だと感じました。現場は週案はすごく大事にしますが、年間計画などはなかなか活用してないので、きめ細やかに学習をすることは大切なことだと思いました。

環境を通して行う教育では、体験をとおして「生きる力」をしっかり付けてあげられる理想の形だと感じました。理科の学習指導要領解説にも科学的な体験をおぎなっていくといけないとありました。人が知識を知恵に変えていくにはやっぱり「体験」で、体を動かし工夫することが大事と改めて感じました。幼・小・中は連携を活かした教育課程の必要性を感じました。（波照間生子）